

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 駒田
日 時	令和5年9月13日（水曜日）	開 議	午前 11 時 5 分
		閉 議	午後 1 時 45 分
出席委員	◎木村、○法貴、林、片山、山木、齊藤		
出席理事者			
出席事務局	井上事務局長、加藤副課長兼議事調査係長事務取扱、駒田主査		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

11:05

1 開議

2 事務事業評価選定事業の論点整理

[事務局説明]

事務事業評価では、限られた時間の中で説明・質疑、その後の委員間での議論を通じて評価結果をまとめるということから、時間上の制約もあるため、議論の焦点とすべきことを事前に整理しておく必要がある。当日、論点に沿った質疑、適切な評価ができるよう、これより論点整理を行っていただきたい。

(1) バス交通関連経費

<木村委員長>

論点について意見はあるか。

<片山委員>

バス交通に関して市民の方からご意見を伺うことが多い。京阪京都交通との連携の中で、バスの乗り継ぎの問題や運行スケジュール、路線の決定などの課題を明確にして、今後の展開を確認すべきではないか。

<林委員>

交通空白地等地域生活交通事業補助金の成果を確認したい。

<法貴副委員長>

同補助金は予算を使い切っておらず、約120万円が余っている状況である。この予算を活用し、車両の老朽化などに対応できたのではないか。

<木村委員長>

令和元年度の事務事業評価結果においても、「今後も公共交通に対する市民ニーズを的確にとらえ、市民の移動手段確保のため一層工夫されたい」とあるが、この結果を踏まえてどのように取り組まれているのか確認したい。市民ニーズに沿ったバス路線であるべきであり、どこにニーズがあるのか調査の上データで把握すべきだと思う。

<片山委員>

バス路線ごとのデータに関しては、公共交通対策特別委員会の資料で見た記憶があり、路線ごとに違いはあるが、乗車数は微増であったかと思う。

<齊藤委員>

公共交通対策特別委員会の資料として調査結果が提出されている。

<事務局副課長兼議事調査係長>

齊藤委員からあったとおり、公共交通対策特別委員会でまちづくり推進部から利用者の乗車状況等のデータが資料で提出されており、サイドブックスにも格納されているので確認いただきたい。

<齊藤委員>

決算の事務事業評価であるので、昨年度事業の検証を行わなければならない。地域主体型交通への補助金が有効に活用されたのかということを確認した上で、今後の方向性についても要望できればと思う。

<木村委員長>

論点として、「公共交通に対する市民ニーズや課題を整理した上で施策が実施できているか」「地域主体型交通に対する補助は有効に活用されているのか」でよいか。

(全員了)

<木村委員長>

文言等の整理は正副委員長に一任願う。

(2) 農業担い手づくり育成事業経費

<木村委員長>

論点について意見はあるか。

<齊藤委員>

令和2年度事務事業評価の拡充という結果に対して、補助金などを交付しても焼け石に水の状態で収益につながっておらず、営農計画の指導などマネジメントができていないと感じる。補助金が的確に使われて、農業者の経営安定につながっているのか確認したい。

<法貴副委員長>

農業次世代人材投資資金（経営開始型）補助金の決算額が令和3年度から令和4年度にかけて減少している理由と、集落営農育成強化助成事業補助金の予算額が減少した理由を聞きたい。また、担い手確保・育成支援事業補助金など、担い手育成に関する補助金は成果につながっているのか確認したい。

<片山委員>

農産物の価格低迷など、農業者を取り巻く状況は厳しいため、一定の価格保証などの補助は基幹産業として必要であると思う。また、次世代育成のための補助が減ってきているのは、担い手になる人材が減ってきているのかもしれない。決算としては、ジャンボタニシ防除対策推進事業補助金の成果を確認し、今後の展開についても確認したい。

<山木委員>

令和2年度事務事業評価の結果として専任マネージャーの充実を求めているが、この専任マネージャーは農業経営に関する指導のみでなく、既存農家と良好な関係を築くための取組も行ってほしいと考えている。令和2年度事務事業評価結果からの進捗についても確認したい。

<木村委員長>

担い手専任マネージャーの業務内容について確認できるとよいと思う。

<齊藤委員>

既存農家と新規就農者や有機農家とのあつれきが生じない仕組みを考えるべきである。ジャンボタニシの問題については、防除剤の散布のみではなく用排水をしっかり管理することも必要である。

<法貴副委員長>

専任マネージャーに関する記載が決算書に見当たらないので確認したい。

<木村委員長>

論点として、「補助制度が的確に活用され、経営安定につながっているのか」「担い手育成に関する補助金は成果につながっているのか」「担い手専任マネージャーの充実（令和2年度事務事業評価結果）に係る進捗は」「新規就農者の生産性向上や既存農家との関係確保につながっているのか」でよいか。

（全員了）

<木村委員長>

文言等の整理は正副委員長に一任願う。

11:50

<休憩 11:50~13:00>

（3）畜産振興関係経費

<木村委員長>

論点について意見はあるか。

<齊藤委員>

亀岡市土づくりセンターについて、近隣住民からの苦情や地域こん談会での問題提起が長年あるにもかかわらず放置されているのが問題である。場所移転というよりも、そもそも家畜排せつ物の処理自体を見直さなければならない。また、現在の施設は老朽化により機能が薄れつつあるのではないか。

<山木委員>

亀岡市土づくりセンターに関しては一般質問で何度も質問されており、地域からの要望もある。環境先進都市という観点からもこのまま放置するのは疑問があり、施設の在り方を検討してほしい。

<齊藤委員>

飼料価格高騰緊急対策事業補助金に関して、飼料価格の高騰分を消費者に価格転嫁できず、生産者への補助により補填している状況である。この補助金によりどのくらい成果があったのか確認したい。

<法貴副委員長>

亀岡市土づくりセンターに関してはいろいろな意見がある中で、施設自体の必要性は認められるものであるので、評価するのは難しいところもある。亀岡牛安定供給体制推進事業助成金の決算額が予算額を上回っていることについて、事業の内容も含めて確認したい。

<片山委員>

亀岡市土づくりセンターに関しては、有機肥料の需要が高まることも想定して、今後の在り方を考える検討会など専門家を交えた検討の場を設置すべき時期に来ている。臭気の問題については、京都先端科学大学のグリーンイノベーションも連携して考えてもらえるとよいのではないか。

<齊藤委員>

亀岡市のみではなく、近隣市町などと広域で連携して対処いただきたいと考えている。

<木村委員長>

論点として、「土づくりセンターの老朽化が進み臭気問題も解決しない中で、今後どのように考えているのか」「各補助制度の成果と、今後どのようにつなげていくのか」でよいか。

(全員了)

<木村委員長>

文言等の整理は正副委員長に一任願う。

(4) 林道管理事業経費

<木村委員長>

論点について意見はあるか。

<齊藤委員>

かめおか霧のテラス維持管理業務委託料に関して、霧のテラスにたばこのごみが多いという苦情を聞く。山火事の懸念もあり、維持管理がしっかりとできているのか確認したい。

<山木委員>

林道に関しては継続的な管理が必要だと感じている。現状は災害などの事態があった場合のみ対応している印象があり、保守管理など維持するための費用が必要ではないのか。応急工事ばかりであり、本格的な湧水処理などができるよう工事すべきではないかと思う。

<林委員>

林道の長寿命化や維持管理の徹底は重要であり、できているのか論点として確認したい。

<木村委員長>

林道に関する予算額が少ないように感じる。また、日頃からの保守点検は重要である。

<法貴副委員長>

林道については点検を強化すべきと感じる。

<山木委員>

森林環境税の徴収が開始されることで、森林に対する市民の関心が高まると思う。先に配分されている森林環境譲与税は林道の管理にも充てられていると思うので、その用途を確認したい。

<齊藤委員>

森林環境譲与税により林道管理に関する予算は確保できると思う。単なる林道管理のみではなく、観光コンテンツなどにも活用できるよう整備してほしい。

<木村委員長>

論点として、「林道の管理は長期的な視点をもって適切に行われているのか」「森林環境譲与税の活用などにより、林道整備を拡充すべきではないか」「霧のテラスの維持管理は適切に行われているのか」でよいか。

(全員了)

<木村委員長>

文言等の整理は正副委員長に一任願う。

3 その他

[事務局 決算審査日程説明] (了)

<木村委員長>

その他、事務局から連絡事項はあるか。

<事務局主査>

地方創生関連交付金等の資料を配付したので、明日からの決算審査に持参願う。
また、決算カードも配付している。暫定値ではあるが、決算審査の参考にされたい。なお、明日10時からの決算全体会には、提出予定議案の概要を持参願う。

～散会13:45